

国際社会学部

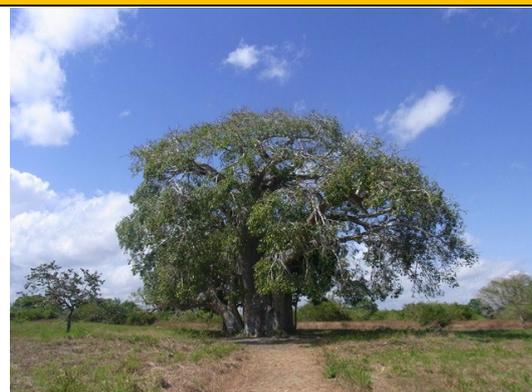
坂井真紀子

Sakai Makiko

地域社会研究コース／アフリカ地域

現代アフリカ地域研究センター

(農村社会学)



アフリカの農村から見えてくること

アフリカの農村生活にずっと惹かれて来ました。最初はアフリカ中央部のチャドをフィールドに、農村部の人々の暮らしと開発プロジェクトの関係性を調査、その後、調査地をタンザニアとカメルーンに移し、グローバル化を背景とする人々の生業の多様化とお金の関係の変化を中心に研究を進めています。なぜアフリカの農村なのか。その魅力を言葉で伝えることは難しいです。でも確かなことは、そこに環境と対話を重ねて作り上げられた人間社会の原点があるということです。“近代化”に適進してきた人類は、ITの進化と共に、皮肉にも自らを社会から疎外する道を選んでしまいそうです。これほど「今、ここにいる」ことが難しくなった時代はかつてなかったでしょう。SNSでバーチャルにつながりすぎた世界は他者とのリアルな関係を断絶し、貧富の格差や非寛容というゆがみをつくりだしています。では肉体を持った人間が、互いを思いやりながら気持ちよく生きていける社会のサイズはどのくらいなのでしょう？アフリカの村の生活にこそ、その答えがあるように思います。しかし都市化やデジタル化でアフリカ農村も、どんどん変化を余儀なくされています。コスパやタイパ、効率、損得、そうした偏狭な価値観が破壊してきた、数値化できない豊かさに急いで気づく必要があります。自然環境に身を委ねた農や牧の暮らしは、決して「遅れた」ものではありません。その真の豊かさを知ることは、今私たちが直面する問題の根元に光を当てるきっかけにつながるのではないのでしょうか。

研究紹介

タンザニアでは、都市化により急激な変化を遂げる農牧民の生活におけるマイクロクレジットなどの現金の動きとコミュニティの支え合いについて、カメルーンではコーヒー栽培の終焉に伴う生鮮野菜の栽培と流通網の活性化に注目し、女性の野菜商たちのローカル定期市での生活戦略を追いかけています。

関連リンク

- **アフリカ地域専攻公式HP (担当教員)**
- **現代アフリカ地域研究センター (スタッフ紹介)**
- **インタビュー記事 (2021) 「アフリカと紡ぐオーダーメイドの人生」**
<https://wp.tufs.ac.jp/tufstoday/research/21051701/>
- **タンザニア絵本プロジェクト (クラウドファンディング) (2021)**
<https://readyfor.jp/projects/61033>

出版物

- Maghimbi, Sugimura and Mwamfupe (ed.), 2016, *Endogenous Development, Moral Economy and Globalization in Agro-pastoral Communities in Central Tanzania*, Dar es Salaam University Press.
- Takahashi, Oyama, and Germano Mwabu (ed.), 2021, *Between Fluidity and Fixedness: Development and Livelihoods in Globalizing Africa*, Edition Langaa, Yaoundé.
- さかもとくみこ、すぎやまゆうこ、さかいまきこ著、(2021) 『ニョタのふしぎな音楽～タンザニアの星空のもとで～』三恵社

担当授業

- アフリカ地域基礎
- 南部アフリカ開発共同体大使リレー講義 (コーディネーター)
- フランス語でアフリカを見る
- アフリカ農村社会学
- アフリカと開発
- アフリカ地域ゼミ
- 地域研究入門 (リレー講義)

関連する分野

- 村落開発
- 社会学
- アフリカ地域研究

国際社会学部

アフリカ地域研究

ゼミの紹介

アフリカの人々の生活に視点を置き、そこからさまざまな問題を考えるゼミです。アフリカは地域的な広がりもさることながら、抱える問題も多様です。アフリカを単なる研究対象としてとらえるのではなく、アフリカの立場を理解するとともに、自分自身の社会における立ち位置を意識し、未来を一緒に考えていく情熱のある人を歓迎します。自らどんどん好奇心を持って探究できる人には自由で開かれたゼミです。

メンバーの中には、中央アジア、東南アジア、南アジア、東アジア、ラテンアメリカなどアフリカ以外の地域の学生も多数参加しています。アフリカをテーマに学ぶうちに、日本社会の問題に興味を持つようになった人もいます。アフリカを観察しつつ、映し鏡のように他の地域と比較できるのも面白い学び方です。

坂井ゼミの特徴は、全員参加の密なディスカッション。ゼミ生の興味関心は広く、教育・政治・ジェンダー・環境、、、と多様です。一見独立した別のテーマのように思えますが、実は深いところできつなっています。意見を交わし深めていく中で、社会のあり方の根元につながるような発見があったり、自分の視点が180度変わったりという「学んでいる」実感が得られることがゼミの醍醐味でしょう。その気づきを大切に育てて、助け合いながら丁寧に卒論を書くという作業は大学時代にしかできない大切な経験です。

卒論

- “The role played by street vendors in Mzuzu City, Malawi”
- 『小規模農家にとっての「チェーン型スーパーマーケット」市場－南アフリカの事例より－』
- “Home-Based female workers of India: The joint struggles with self-employed women’s association”
- 『マイクロファイナンスの商業化が開発途上国の貧困削減に与える影響について－カンボジアを事例として』
- 『アフリカ映画界におけるフランスへの依存と自立への模索』
- 『アフリカにおけるBoP 3.0と日本企業の可能性－現地の雇用創出と人材育成を見据えて』
- 『イタリアに流入する西アフリカの移民志願者について－人々の移動に影響をあたえているものとは』
- 『アジアの女性が家族計画を選ぶとき－産む・産まないの選択は誰のもの』
- 『ケニア農村社会における携帯電話の普及とその背景』
- 『タンザニア都市部の「食」からみる「健康」－ダルエスサラーム中心部の事例』
- 『伝統的社会における学校教育の社会的妥当性の検討——ケニアの牧畜民サンプルとカメルーンの狩猟採集民バカの事例から』
- 『インドIT教育における「社会的平等性」の検討－上位カーストの語りを中心に－』
- 『レソト王国の平行産業の成功要因分析－優遇アクセス撤廃後に衰退した他のアフリカ諸国との比較－』
- 『人間と野生動物の共生方法－ナミビア住民参加型保全が定着した要因を検討する－』
(すべての卒論リストはこちらをご覧ください。【アフリカ地域専攻公式HP】)